

## 令和7年度 自己評価計画書

石川県立盲学校							
重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	現 状	評 価 の 観 点	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1 授業実践力の向上	他の教員の授業参観や、県教員総合研修センターの授業ビデオ等を活用し、自分の授業に活かす。	教務課	校内の教員間で授業を参観したり、他校の研究会等に参加したりして授業改善の視点を得る機会が十分ではない。	【努力指標】 他の教員の授業を参観し、授業改善の視点を持ち、自分の授業に活かすことに取り組む。	校内あるいは校外において、他の教員の授業を2回以上参観して授業改善の視点を持ち、自分の授業に活かした教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る	教職員アンケートにより評価
2 専門性の向上とセンター的機能の充実	各教職員が、自身の経験に応じて自己研鑽を積み、視覚障害に関する専門性の向上を目指す。	進路・支援課	県内唯一の視覚障害特別支援学校として高い専門性が求められる。各教職員が専門性チェックシートを活用し、自己の専門性を確認しながら研修等に取り組み専門性向上を目指す継続した取り組みが必要である。	【成果指標】 各教職員がテーマを決めて研修等に取り組み、児童生徒への指導に関して、専門性向上を実感した。	専門性チェックシートを活用して研修等を行い、自分の専門性が向上したと感じた教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	教職員アンケートにより評価
3 キャリア教育の推進	キャリア教育全体計画をもとに児童生徒のキャリア発達の課題を把握し、目標や教育内容・方法、各教科の関連等を考慮しながら実践し、キャリア教育の充実を図る。	進路・支援課	昨年度、キャリア教育全体計画の活用について取り組み、一定の評価を得られた。しかし、個々の児童生徒の目標の共有が課題であった。児童生徒の目標を一覧にする等の周知を行い、学校全体で多角的に個々の児童生徒への働きかけをすることが必要である。	【成果指標】 教員が、全体計画をもとに児童生徒それぞれの目標を意識した授業や行事を実践した。	全体計画をもとに、児童生徒それぞれの目標を意識した授業や行事を実践した教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	教職員アンケートにより評価
				【成果指標】 児童生徒が、現時点での自分の強みや弱み、興味関心について他の人に伝えることができた児童生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	自分の強みや弱み、興味関心について他の人に伝えることができた児童生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	児童生徒アンケートにより評価
4 安全・安心な学校づくり	大規模災害を想定した危機管理体制の整備、校内研修の充実を図り、教職員の危機管理や防災への意識を高める。	指導課	年齢、価値観が様々な舍生が寄宿舎で生活するなかで、行事に向けて他者を認め協力して準備を進める力が大切となる。協力できる力を伸ばし、卒業後に必要な人間関係形成・社会形成能力を身に付けることを目指したい。	【満足度指標】 保護者が、学校から提供した行事や進路に関する情報をきっかけとして家庭内で児童生徒と将来について話し合いができた。	進路行事や配付物、懇談等をきっかけとして児童生徒と将来について、家庭内で話し合いができた保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	保護者アンケートにより評価
				【満足度指標】 舍生が、他舍生と協力して寄宿舎行事の準備や運営をすることができたと答えた舍生が A 4人以上 B 3人 C 2人 D 1人以下	他舍生と協力して寄宿舎行事の準備や運営をすることができたと答えた舍生が A 4人以上 B 3人 C 2人 D 1人以下	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	舍生アンケートにより評価
				【成果指標】 危機管理体制の整備や防災研修会などの取り組みを通して、自身の危機管理や防災に対する意識が向上した。	危機管理体制の整備や防災研修会の受講などを通して、危機管理や防災への意識が高まったとする教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	教職員アンケートにより評価